

着実な砂防施設整備により被害を防止

—兵庫県神戸市における整備効果—

○兵庫県神戸市では、死者・行方不明者695人等の大惨事をもたらした昭和13年7月の阪神大水害の直後から、直轄砂防事業により集中的に砂防堰堤545基等を整備。

○その結果、同程度の降雨が発生した平成30年7月豪雨では、重大な人的被害等は発生せず、被害を未然に防止。

<過去の被災状況>



荒田町（兵庫区）の土砂で埋没した家屋（S13災）



（中央区）JR高架北側の堆積土砂（S42災害）

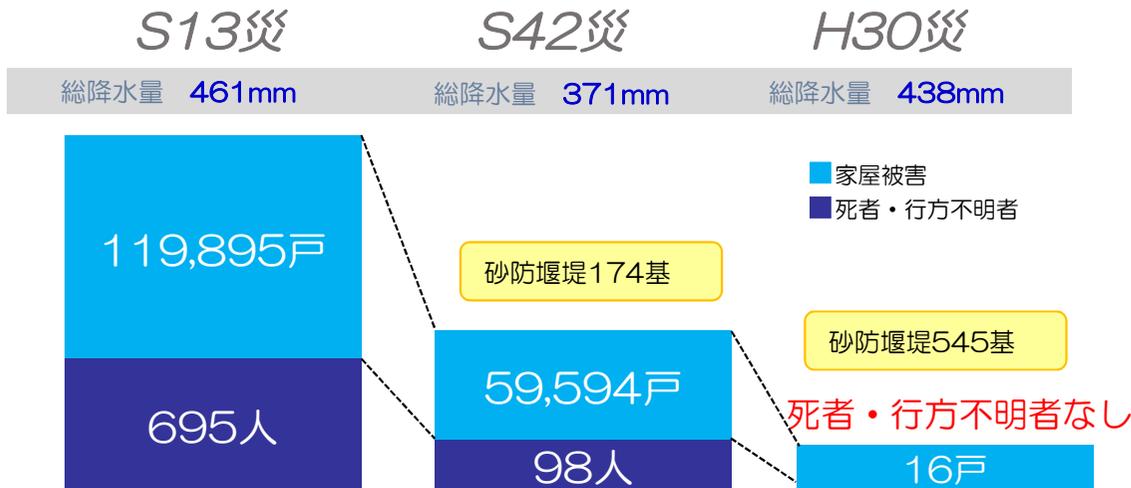
<H30.7豪雨災害の施設効果>

約2,900億円の砂防施設整備で約2兆円の資産を保全



三の谷1号砂防堰堤（神戸市須磨区）（H23.6年完成）

<過去の被害状況との比較>



砂防堰堤が土砂・流木を捕捉し下流への被害を未然に防止

砂防堰堤の集中的な整備により、国土が強靱化

無施設でS13災害と同様の災害が発生すれば資産だけで約2兆円の被害と推計、繰り返す豪雨から国土を保全